

レズビアン風俗という場について

山崎 奈津美

レズビアン風俗とは、女性が女性に対して性的サービスを提供する性風俗店である。レズビアン風俗のように同性間で提供される性的サービスは、性の多様化に伴って、徐々にその数を増やしている。しかし、現行の風営法で対象となっているのは異性間での性的サービスのみであったり、先行研究においても女性が男性に対して提供する性的サービスが前提になっていたり、同性間での性的サービスはグレーな存在となっている。そこで本研究では、同性間で提供される性的サービスのひとつであるレズビアン風俗に焦点を当て、レズビアン風俗でのサービスやそこに関わる人々について明らかにすることを目的とする。また、それをもとに、レズビアン風俗がこれまでの研究とどのように接続するのかについて検討を行なう。

本研究では、半構造化インタビューとフィールドワークを研究手法として採用した。半構造化インタビューでは、レズビアン風俗で性的サービスを提供するキャスト 12 名と利用者 1 名を対象とした。また、インタビューを補完するためにレズビアン風俗店のイベントで 4 回、レズビアンバーで 2 回のフィールドワークを行なった。いずれの調査も、2019 年 4 月から 9 月にかけて実施した。

本研究の調査から、以下のことが明らかになった。まずは、レズビアン風俗を取り巻くイメージについてである。(1) キャストや利用者は、レズビアン風俗で提供されるのは心を満たすサービスと考えており、性的サービスを補助的なサービスとして語る。(2) そういったイメージから、精神的に弱かったり、疲れていたりする人を利用者としてイメージしており、そこに当てはまらないために利用をあきらめる姿もあった。次に、レズビアン風俗を取り巻くマイノリティ要素との結びつきについてである。(3) レズビアン風俗とセクシュアリティの結びつきについては、利用者のセクシュアリティが問われていない一方で、キャストのセクシュアリティが固定的であるというように、その立場によって揺らぎが存在した。(4) レズビアン風俗と性風俗業の結びつきについては、自らが思い描くレズビアン風俗の姿と一般的な性風俗店へのイメージのギャップにより、キャストや利用者が語りにくさを抱えていることが分かった。

キャストや利用者は、レズビアン風俗で提供されるサービスは男性向け性風俗店と異なるという意識を強く持っている。こうした意識を持ったキャストや利用者が一般的な性風俗店へのイメージに抵抗することで、性風俗店らしい側面と性風俗店らしくない側面が混在するレズビアン風俗という場が形作られていると考えられる。

(指導教員 照山絢子)